

第 1 回 子どもと親子の活動・交流拠点整備計画策定に向けたワークショップ まとめ

- 開催日時：令和 3 年 7 月 26 日（月）午後 2 時から午後 4 時
- 場 所：橋北交流会館 3 階 第 2 会議室
- 参加人数：子育て団体関係者、保育学生、こども子育て交流プラザスタッフ、市保育士、児童館スタッフ、子育て支援関係者など合計 11 名

■ 概要

- 1 第 1 回検討委員会の内容紹介
- 2 ワークショップ「拠点施設にあればよい機能や設備について」

■ ワークショップでの主な意見

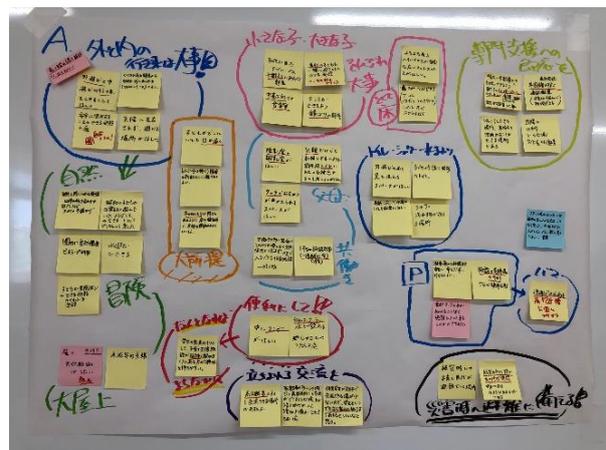
- ・ 2 グループにわかれて「拠点施設にあればよい機能や設備について」意見交換をしました。
- ・ 延べ 99 件の意見があり、それらの意見を踏まえて整理しました。

		整理した主な意見
施設の基本的な考え方	施設と外構	天候・気温にかかわらず活動できる屋外のスペースを備える。 屋内外を連続的に使えるなど、公園との一体的整備を活かす。 周辺施設（南部丘陵公園、保育園、小学校）との関係を活かす。
	安全・安心・快適	子ども、保護者、職員が、相互に視線を交わし合える空間を設える。 明るく、風通しがよく、木のぬくもりが感じられる。 不審者対策や交通安全など、安全対策に抜かりがない。 災害時に、子育てファミリーの特性に即した避難所となる。
	交流	子どもを持つことを考えている人や、保育・看護学生など、いろいろな人が気軽に立ち寄ることができる。 学生、高齢者、国籍が異なる住民との交流ができる。
	接近性	駐車場を十分に備えている。 公共交通でアクセスしやすい。 子どもだけでもアクセスできる。
対象・立場別の機能 ニーズへの対応	子ども	自然の素材や芸術、活発に身体を動かせる空間などを活用しながら、“発見”や“冒険”を楽しんで発達・成長できる。 未就学児、小学生、不安を抱えている状態の子や障がい等の支援を必要とする子など、いろいろな子どもがその子らしく過ごすことができる居場所がある。
	保護者	雨風を避けて自動車の乗り降りができ、玄関まで移動できる動線が確保されている。 手洗い・トイレ・シャワー・ロッカー、授乳室、調乳室、ベビーカー置き場など、父親や母親の利便や、子どもの特性に応じた設備の利用勝手が確保されている。 好きな時間に利用ができ、食事ができる場所がある。 子どもや保護者の不安感、困りごと・悩みごとに、気軽さと専門性をもって応えることができる。
	公共	保育所待機児童がいる共働き世帯などに、必要な一時保育を提供できる。 多言語、イラストやピクトグラム等のサインがあり、外国籍の方でも利用しやすくなっている。

<参考資料：付箋の意見>

■ 外と中の行き来は大事！
外遊びと中遊びの行き来をしやすくしてほしい。
安全に使用することができる施設の庭（自分とこの！）
天候に左右されず遊べる場所がほしい。
いくつかある部屋からそれぞれ外にでられる（つながっている）とよい。
最上階の子育て施設はありえない。
■ 「自然」のあそび
自然を感じられる施設、四季の移り変わりや日差しなど大きな木陰。
昭和の子どもが日常的に遊んでいたようなことができる。ドロンコ、ザリガニ釣り、落とし穴園内に自然環境、ビオトープ利用。
水遊びができる。
■ 冒険
子どもが冒険遊びできる施設、かくれんぼ、迷路。
■ 大屋上
屋上、天体観測とかしたい。夜も。未成年の主張。
■ 大前提
子どもがどこにいても目が届く。
（小さい子は特に）階段の利用なしに遊べるとよい。
木のぬくもりを感じられるように、床や壁面等に木材の使用があるといいな。
■ 小さな子・大きな子、それぞれ
子どもにあったテーブル・椅子、年齢別の遊べる部屋。
中高生向けの音楽室。
車いすの子どもも一緒に遊ぶことができる施設。（ハーネス付きブランコ）
ダンスができるよう、鏡ばりの部屋。
■ 特に床
よちよち歩き、ハイハイが安全な広いマットスペースがほしい。
スポーツができる（ホール、プラザのようなコルクタイルは剥がれるため不可）
■ トイレ・シャワー・水まわり
外遊びのあと、足を洗えるスペースがほしい。
子ども用（主に幼児）のトイレ。
年齢に応じた水道やトイレを設置してほしい。
シャワー、汚れものが洗える場所。
■ 父母・共働きに対応
授乳室と調乳室がほしい。
父親だけでも利用しやすいように男性用トイレにおむつ交換台や子ども用トイレがほしい。
タッチでおむつがかえられるスペースがほしい。
共働きの多い家庭はこれからも増えると予想。保活に悩まず、スムーズに入会できる保育施設。一時保育。
休日の施設利用（一時預かり含む、保育）

■ 便利にして！
中にコンビニがほしい。
ウォータークーラー（水が飲める）。
蛇口ひねったらお茶。
■ なんとかかなれば、まちなかに
学生の意見の一つとして、子育て支援施設が街中（駅の近く）にある方が興味を持ちやすい
■ 立ち寄れる交流を
高齢者の方々と交流できる場所があるとよい。
高齢者の多い地域では高齢者同士の交流ができるような場。そこに子育て世代が入り、子育ての知恵が出せる場。
保育学生が親子と交流できる場が少ないので、学生もいつでも立ち寄れる施設であるといいなと思う。
■ 専門支援への即応を
幅広い年齢層にも対応できるよう、心理、スクールカウンセラー、看護、医師（巡回）等専門相談員必要。
ゆっくりできる場所、気持ちを落ち着かせることができる場所がある。
表示関係、外国語対応、通訳配置（子育ての悩みが相談できる）
近隣の小中学校、0～6歳会議、民生委員との連携。
■ 駐車場やバス
駐車場から施設まで安全に傘をささずに行けるとよい。
施設と駐車場の距離、十分な駐車場台数。
車いすマークの方がぬれることなく施設に入って来ることができるように。
送迎バスがある（南部丘陵公園とつながる）
■ 災害時の避難に備える！
被災時には子育て世代が避難できる場所。
防災時に役立つような施設。井戸がある、カマドがある、カマドになる。



■ スポーツができる。低学年中学年向け。
広い多目的ルーム（ドッチボールができるくらい）。小学校体育館の半面程度の体を動かせる場所。
卓球やバドミントンができるホールがほしい。
充実した室内遊具（幼児向け、0～6歳）。
■ 乳幼児・未就学児があそぶエリア
赤ちゃんが遊ぶエリアはクッションマットにしてほしい。
年齢制限のあるエリア/MIX エリアがほしい。
■ 室内のあそぶエリア
年齢に応じた部屋。
カプルーム。
■ 飲食ができるエリア・災害時にも対応
食堂（時間帯に関係なく食べられる、お昼の時間だけ利用できるランチスペースではなく部屋で）
単独の調理室ではなく、調理機能を備えた多目的に利用できる部屋。
ラウンジ。
■ 個別機能に対応した部屋
調乳室。
工作室。
楽器を使用できる場所。
どんなステキな施設でもそれを使う人によって良い、悪いが決まってくるので、利用するにあたってのルールを決め、守るようにする。
■ 居場所がある
静かで落ち着く事の出来る場所。
子どもが1人になれる部屋、気持ちを落ち着かせることができる。
タタミスペース。
■ トイレ・水まわり
各部屋に手洗い場。ユニバーサルデザインの蛇口。
外に手洗い場。（外から中に入るとき）
すぐに手が洗える手洗い場。
屋外トイレ・きれいで明るい。
屋外トイレ・人が入ったらくもる、出たら透明になるトイレ。
男性トイレにもおむつ替えスペース、子ども用のトイレを。お父さんが子どもに対応できる。
ベビーカーのまま入れるぐらいのトイレ。
親子トイレは子どもが最低二人は入れる広さに。
■ 外から施設内へ入りやすい工夫
ベビーカーを置く場所がほしい。
ロッカー、荷物を入れられる。
■ 屋外の遊具・あそび
幼児が遊べる、小学生が遊べるそれぞれの年齢に応じた遊具。
ミスト、水遊びエリア。
アスファルトの道
ベビーカー、くつなどは砂、砂利に埋まる。

外のクッション地面（鈴鹿サーキット）
屋上で天体観測、夏休みの観察。
どんぐり、まつぼっくりなど自然のもので遊べる木、生産性のある木（△スギ、△くすのき）
雨でも、とても晴れた日でも気にせず使えるような大きなテラス（屋根）がほしい。
■ 濡れない駐車場・施設へのアクセス
屋根のある駐車場。
駐車場から雨でぬれない屋根付き道。
駐車場から濡れずに子育て施設へ行けるよう、通路に屋根がほしい。
図書館の自動車文庫がとまれる駐車スペースがほしい。
ごみ箱とか衛生面はどうするのか。
バス代が子ども料金、お小遣いで遊びに行ける。
■ 利用しやすさ
学生の運営ボランティア、学生スタッフ。
学生でも気軽に交流できる、学生開放などができる様にして頂けるとよいと思います。
学生としてイベント等の案内を目にする機会がないので、行き方などに関してもよく目に見える物があればと思います。
2回目以降からの利用はカードなどがあり、簡単に利用できるようにしてほしい。毎回、利用者カードを記載するのは面倒。
外国籍の人も利用しやすいように通訳が常にいるようにしてほしい（表示ポルトガル語、スペイン後の標識で）
どの地域の人でも気軽に来られる雰囲気。
外国籍の人が理解しやすいルール統一。
近くの施設との連携（保育園、幼稚園、多文化交流施設、南部丘陵）
地域とのつながり、小中学校。
初めて来ても場に馴染めるように、スタッフからの「ママ」への声かけ。
案内表示は色弱の方でも見やすいように。表示は文字ではなく、ピクトグラム・絵での表示が良いかと思えますよ。
■ 安全の確保
不審者にどう対応するか。
カーブミラーや車止めなど安全に気をつけられるようなもの。

